

特集「蘇れ 千里山会」

編集部（萩原）

現状の把握

まず下の千里山会総会出席者数・会費納入者数及び期末繰越金の推移表をご覧ください。その全てが04年度をピークに直線的に減少に転じています。昨年度の繰越金は33万円で、昨年の会誌印刷費が40万円を超えております。これに会誌郵送費用を加えると今後は発行できないこととなります。

一方、「千里第二小学校ものがたり」（三）でも報告しましたが、この東京近郊在住者を母体とする千里山会の存在は地元千里山で大きくクローズアップされているのを感じました。実態はかなり危ぶまれるにもかかわらず。

まず会員の皆様に現実を直視していただき、ともに改善策を模索していききたいと思ひ特集を組みました。

千里山会会費納入者数・総会出席者数・期末繰越金

年度	会費納入者数	総会出席者数	期末繰越(千円)
2001	236名	109名	876千円
2002	300名	119名	734千円
2003	304名	96名	707千円
2004	303名	108名	1,113千円
2005	264名	101名	1,049千円
2006	238名	84名	979千円
2007	229名	81名	712千円
2008	221名	77名	561千円
2009	194名	60名	332千円

現状の分析

再び下の表の卒業年次別（5年括り）の総会出席者数を見て下さい。この表からはいわゆる団塊の世代以降の出席者が極端に少ないことがわかります。団塊世代に加え、千里山駅東側の公団住宅や郊外学園周辺の開発に伴い千二小の急激な学童増の時期でもあります。それと区分が5年括りのためにわかりにくいのですが、実はこの括りにも毎年出席者が多い学年と、逆に毎年出席者ゼロの学年があります。どうせ出席しても同級生がいない、あるいは少ないために面白くないといった悪循環に陥っているのでしょうか？

ほとんど毎年出席者がゼロの学年
 19 回生, 25 回生, 28 回生, 30 回生, 34 回生
 毎年出席者の多い学年
 18 回生, 20 回生, 24 回生, 26 回生, 27 回生, 32 回生

卒業年度別 総会出席者数(5年括り単位)

回生	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
1～10	6名	4名	6名	4名	3名	2名	0名
11～15	9名	16名	14名	11名	12名	12名	12名
16～20	22名	30名	23名	23名	19名	15名	17名
21～25	23名	18名	22名	10名	19名	16名	11名
26～30	23名	26名	23名	30名	19名	22名	9名
31～35	11名	10名	11名	5名	8名	7名	7名
36～43	2名	4名	1名	1名	1名	2名	4名
合計	96名	108名	101名	84名	81名	77名	60名

改善策に向けて

先にも述べましたようにまず会員の皆様に実情を知っていただくことが先決と考えました。今回のこの会誌が発行できるかどうかです。そんな時間に時間があるわけではありません。

そこで今年の初めにできるだけ多くの年代に渡って均等に選ばせていただいた60名の方々に、メールあるいは葉書で「千里山会存続の危機」と題し、会の運営についての率直なご意見を募りました。この人選に当たり、幅広く均等な年齢構成を重視したことや私の認識不足から別の面からは妥当性に欠けた点があったかと思えますがお許し下さい。

その結果、15名の方から運営についての反省点と今後の対策についてのご返事をいただき、それらを元に3月6日（土）、八重洲倶楽部で拡大常任幹事会（18名出席）を開催しました。そこでは白熱した意見が飛び交い、とにかく総会等については新たな若い組織で当たることになりました。この一連の動きを報告させていただきます。

葉書・メールによるご意見

一. 運営組織・方法に関するもの

- * 常任幹事会を開き、意見を集めその議事録等を今年の会誌に掲載し、広く会員の皆様に危機意識を持ってもらう。
- * 世話人代表・常任幹事の交代や増強、特に若い方の参加を促し、運営組織の活性化を図る。
- * 相当の年齢差があり（40歳ぐらいの開きがある）、双方に共通性を求めることはかなり難しい。そこで二重組織として組織運営を図る。
- * 大阪の「ちさと会」と交流を深め、情報交換や意見の交換を図る。
- * 徐々に若い方に運営の主体を移行していく。

二. 総会・懇親会に関するもの

- * マンネリ化しているので新たな企画、催しで全

- * 員参加の会にした方がいい。
- * 会場・料理を見直し、総会・懇親会費用をもう少し安くすべき。
- * 時折、講演会やコンサートのみとし、一般人の参加を促す。一般人も有料とし、それには筒井康隆氏等の著名人にも参加してもらう。
- * 著名人や会員の中からその道の専門家に講演を依頼し、生活・人生・健康に役立つ知識を披露してもらう。出席者の満足を得られる催しを企画する。
- * 総会・懇親会は基本的に実費とし、出来るだけ安くし、同時に小額寄附をお願いする。

三. 千里山会誌に関するもの

- * 会誌の簡素化を図る。総頁数・カラー頁を減らし、作成・配布部数を減らしし出費を減らす。
- * 広告を募り、広告料を運営費にまわす。
- * 「ちさと会」会員を通じ大阪在住者等に有料で配布する。過去の余った会誌も有料で配布する。

* 会誌についての興味度等についてアンケート結果は「最近の会合はあまりおもしろくない。一部の一流学校、一流会社経歴者ばかりの集いになって来たと感じられる」といった辛口の批判も

拡大常任幹事会

実施日 平成22年3月6日(土) 13時〜
 場所 八重洲倶楽部
 出席者 柿崎(14), 高橋景(15), 清水(16), 高橋一(17), 寺澤(劉18), 久保(20), 大森(21), 尾川原(22), 平川(23), 佐怒賀(片山23), 河井(24), 河合(五十嵐24), 奥田(24), 村岡(26), 高見(27), 萩原(27), 石井(35), 益田(39)
 以上 敬称略 (回生)

約2時間半にわたり、①会費の納入不足 ②支出の

- * 会費滞納者への会誌配布は辞める。(3年以上の滞納者を目途とする)
 - * 会誌の発行をしばらく休止とするか隔年とする。
 - * 会費Ⅱ会誌の感が強いので、会費を増額(3千円程度に)する。
 - * 著名人に寄稿を依頼し付加価値を高め、最終的には会費納入者を増やす。
- 以上のご意見をいただきました。実現可能なものや不可能と思われるものも含まれていると思いますが

久保様(20) 実施のアンケート結果

「千里山会存続の危機」と題してご意見を伺った中に久保様がおられます。久保様ご自身はこのような少し過激な行動を好まれないにもかかわらず、20回生で名簿に名前が載る22名の方にアンケートを取っていただきました。回収率は約半分とのことでしたが
 * 千里山会に出席したい・したくない理由

抑制 ③会運営組織の改正・増強 ④今後の会誌発行方針 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 その結果は次の通りです。

- ① 会費の納入不足
 - * 新会員の増加を今まで以上に図る。その一環として千三卒業生にも声をかける。
 - * 地元在住の方のご子弟で東京近郊在住者を紹介していただき、勧誘に努める。

- ② 支出の抑制
 - * 総会案内は今まで通り会誌と一緒に発送し、メール便等の安い方法を実施。メール便の規制を検討し、合法的方法で行う。(会費振込用紙等は同封出来ないといった規制がある。)
 - * 会誌そのものに関する支出抑制については④で述べる。

- ③ 会運営組織の改正・増強
 - * 大森世話人代表については新世話人代表が決ま

るまで暫定的に継続していただき、今年の総会
までに新世話人代表を選ぶ。

* 柿崎常任幹事が退任され、現状は奥田氏・萩原
氏の二人と手薄になっている。新規常任幹事を
増やし組織化し、一人の負担を軽減する。

* 総会・懇親会については石井氏・一井氏・増田
氏を中心となり、来年からの会場選定や今年を
含め会の活性化と料理等を工夫し少しでも安く
する方向で検討する。(ビュッフェスタイル等)

④ 今後の会誌発行方針

* 200頁を超えるような会誌はかえって読む側に
拒否感を与える。印刷、製本代も嵩むので150頁
160頁程度とし、超える分は翌年に廻す。

* 印刷・製本屋は複数探し、より安い所を使う。

* カラー頁を減らして単価を下げる。

* 規定年数以上に渡り会費未納の方には配布を辞
める。また寄贈先も限定する。

* 会誌に会費と意識している方が多いため、会誌
の休刊や隔年発行は現実的ではなく、寄附をお
願いしてでも毎年続けていく。

その後の活動

3月6日の拡大常任幹事会開催後、石井氏、増田氏
に一井氏(32)が加わり、パソコン上でのSKYPE
で討論会が持たれ、特に総会・懇親会の進め方につ
てはかなり具体的に議論されてきました。

中間報告会及び今後の修正打ち合わせ会実施

5月30日(日)午後2時より

八重洲富士屋ホテルのコーヒールラウンジ

先の3名に柿崎氏・奥田氏・私(萩原)

中間報告及び検討内容の確認と今後も各自仕事・介
護を持つ身のため頻繁に集まることはできないため、
メール等で意見交換しながら石井氏・一井氏・増田氏
でよりよい方向に進めて行くことと、今年の会誌につ
いては奥田氏・萩原氏で進めることを確認しました。

会員の皆様におかれましてもこの特集をお読みにな
った後、何かいいアイデアありましたら是非ご一報
を